2021年度　文学部日本文学科　自己推薦特別・社会人入学試験

国語　問題

【一】つぎの文章を読んで、後の問いに答えなさい。

すでに所持している本をまた買ってしまうという経験を時々するようになった。文庫本、新書版の場合がほとんどだが、年齢相応の記憶力Aゲンタイに見舞われはじめたわけである。一応は積極的に読もうという気持ちでした買物でさえ、そういう有様である。まして日々のこまごましたこと、例えばきのうは何を食べたか、誰と会ったかということなど、どんどん記憶から消えていってしまう。

こういう経験をくりかえすと、子供の記憶力のよさが羨ましくなる。というよりも自分が子供だった頃の、記憶に関係のあるさまざまな情景が思いうかぶのである。きのうのことは忘れても、何十年も前の子供のころのことは案外覚えていられるのだ。[1]子供と記憶は本質的に結びつきをもっているのではなかろうか。生まれたての赤ん坊が強い握力をもっているように、子供はすぐれた記憶力をもっていると言えるが、その問題を教育の次元に導入してゆくと、先天的にそなわっている子供の記憶力はそのまま自然に任せておいていいのか、それともそれをさらに伸長させるために、何らかの強制を加えなければならないのか、という問題になってきそうである。

子供は興味をもっている事柄は苦もなく覚えてしまう。車の好きな子はちらと見ただけでその車の型式や種類を言いあてるし、鉄道フアンなら全国の駅名を暗記しているかもしれない。そういうふうに、好きなこと、楽しいことをいつのまにか頭に完全にいれているという状態が、記憶についても最も幸福な状態である。だが、あいにく記憶しなければならない事柄は、子供が必ずしも喜んで立ち向かおうとするものでないことが多い。そこでどういうことになるのか。進んで覚える気持ちになれないような事柄は強制して覚えさせたりすべきではないとする立場や、その事柄の意味を理解させればひとりでに覚えるものだとする立場はこの際しばらく除外しておこう。そういう立場は、記憶に関する一種の平べったい自然主義にすぎず、決して[2]記憶に対する正しい態度とは言えないと思う。記憶および記憶力は自然状態ではないからだ。そうではなくて、問題は、子供が必ずしも喜ばない事柄を強制して覚えさせる上で、どういう理由づけをするか、という考え方の岐れ目の方にあるように思う。

数学の公式、歴史の年代や人名、英語の単語や構文を覚えこませる場合、放置しておいては駄目だから強制を加えるしかないが、これを已むをえずしているのだ、つまり強制しないですむならそれに越したことはないのだという考え方もありうるだろう。こういう考え方では、記憶は何か必要悪といった感じになってしまう。しかし人間に記憶が必要なのはもっと切実な意味からではなかろうか。記憶はたしかに強制だが、それは已むなくする強制ではなくて、文化と社会を成り立たせる上で不可欠な強制に属するのではないかと思う。

人間の手が全く加わっていない秘境の樹木と、植木屋が植え替えや剪定を定期的に行っている同種の樹木をくらべたとき、人間の手が加わった樹木の方が樹勢が強く、根もよく張っている。自然保護というと、とかく一切の人為を排除することと考えられがちだが、それの行きついたはてが自然の荒廃に傾きやすい惧れがあるのは、見逃されている。文化というものは、人間自身を含めたすべての自然を手に入れ、それを一定の法則性にもとづいて賦活していこうとする姿勢によって維持されてきた。人為の及ばない大自然への憧れは抑圧できないが、そういう憧れを抱いた人間が実行しうるのは、子供を躾ることからはじまって、あらゆる人為を可能なかぎり洗練されたものに磨きあげることだけである。

記憶の強制は必要悪ではなくて、最も人間的な状態に達するための条件であろう。ギリシア神話には記憶の女神ムネモシュネがいるが、芸術を司る女神たちミューズはムネモシュネの娘たちである。というよりミューズは芸術だけでなく歴史、天文学、叙事詩、悲劇などのあらゆる知の分野を支配していたのであり、その根源的な母として記憶の女神が存在していたということは、Bシサ的である。

しかし記憶で困らされるのは、やはり忘却という現象だろう。記憶は、ちゃんと覚えていて忘れたりしないことによって価値が出てくるというのが普通の見方であるが、はたしてそうだろうか。常識的にはものを忘れない方がいいにきまっている。しかし人間の文化は、次々と厖大な記憶が蓄積される一方で、厖大な量の忘却が同時に行われてCキンコウを保ってきたのではないだろうか。悲しいこと、いやなことを早く忘れたいと思うのはきわめて人間的と言えるはずだ。記憶が価値であるというのは、言い直せば、記憶と忘却の両面をそなえた巨大な複合体が人間にとって価値があるということになると思う。

２０２１年度　文学部日本文学科　自己推薦特別・社会人入学試験

国語　問題

教育はたしかに子供に記憶を要求するけれども、これは人間がどうしようもなくものを忘れもする存在であるという大前提の上に立って行われているのだと言えよう。忘れる能力をもたずにただ記憶の蓄積にはげんだら、人間は化けものになってしまう。そうはいっても、子供に面と向かっては、これは覚えなければいけないが、覚えたあとで忘れてもいいのだよ、と言うわけにはいかない。大学生ぐらいになればそれが言えるかもしれないという気持ちから、以前ドイツ語を教えていた某大学の教室で、卒業したらと言わず、今度の試験がすんだらこれは忘れてもいい、最初から知らなかったのと、一旦覚えて忘れたのとでは、知らないことの中身が違うのだ、と挑発的に話してみたことがある。あいにく学生たちの反応は鈍かった。彼らはそう言われても、その前にまずそれを覚えなければならないのだから、浮かぬ顔をしていたと見える。これは、忘れることについては、放置しておいても自ずと忘れられるのだから余計なお節介は無用だという意味だろうか。私にはその辺がまだ考え切れないのである。

（高橋英夫「記憶について」より）

問一　波線部A～Cのカタカナを漢字に直して書きなさい。（大きな字で丁寧に書くこと）

問二　傍線部1「子供と記憶は本質的に結びつきをもっているのではなかろうか」とあるが、その結びつきを示す例としてもっとも適切なものをつぎの中から選び、その記号を答えなさい。

ア　子供は日々のこまごまとしたことも、先天的な記憶力によってよく覚えている。
イ　歳を取って記憶力が衰えてきても、子供のころに記憶したことは忘れない。
ウ　子供のころは、強制されなくても覚えるべきことをいつのまにか記憶している。
エ　子供の記憶力は、教育によって強制を加えられることで飛躍的に増大する。
オ　好きなことや楽しいことについては、子供は驚くような記憶力を発揮する。

問三　傍線部2「記憶に対する正しい態度」とあるが、それはどのようなものか。本文全体の内容を踏まえ、四十字以上、五十字以内で説明しなさい。

2021年度　文学部日本文学科　自己推薦特別・社会人入学試験

国語　問題

【二】つぎの文章を読んで、後の問いに答えなさい。

昔、大国に一人の大臣侍りき。二人の女あり。父よく琴をひく。薨(こう)じて後、おほくのたからのなかに、父のひきける琴を二人の女あらそひければ、秦皇これをさいだんせむとて[1]きこしめすに、申す所ともに[2]ことはりなりければ、なからよりひきわりて、絃をも二つにわけて二人の女子にあたへ賜ふ。をのをのこれをえて、おもきたからとしけり。もとは寸法一丈三尺、絃二十六をぞかけたる。いまわかち合ったる所六尺五寸、十三絃なり。いまなづけて「[3]しやうのこと」といふ。故に箏(しやう)とはたけをあらそふとかきたる也。もとはたけにてつくれる物也。[4]我が朝にて桐をもちゐる。されば本儀をおもふにも、尤もあらそひとどむべきにや。

（『文机談』より）

問一　傍線部1「きこしめすに」、傍線部2「ことはりなりければ」の意味をそれぞれ答えなさい。

問二　傍線部3「しやうのこと」はどのようにしてできたか、説明しなさい。

問三　傍線部4「我が朝にて桐をもちゐる」を解釈しなさい。

【三】つぎの文章を読んで、後の問いに答えなさい。（設問の都合上、返り点や送り仮名を省略した箇所がある）

攻(ムル)二我之過(チヲ)一者(ハ)、未(ダ)二必(ズシモ)皆無(キ)レ過之人(チノ)一也。[1]苟求(ムレバ)二無(キ)レ過之人(チノ)一攻(メンコトヲ)レ我(ヲ)、則(チ)終(フルマデ)レ身(ヲ)不レ得レ聞(クヲ)レ過(チヲ)矣。[2]我当感其攻我之益而已。彼有(ニルト)レ過(チヲ)無(キトハ)レ過(チ)、何(ソ)暇(アラン)レ計(ルニ)哉。

（『呻吟語』より）

問一　傍線部1「苟」について、送り仮名を含め、ひらがなで読みを答えなさい。また、その意味を答えなさい。

問二　傍線部2「我当感其攻我之益而已」を現代語訳しなさい。

【四】つぎのア～エの中からテーマを一つ選んで答えなさい。なお、具体例や理由を挙げること。

ア　教師として国語が苦手な生徒に古文や漢文を教えるとしたら、どのような工夫をするか。あなたの考えを述べなさい。

イ　現在書かれている小説で文学史上に残って長く読み継がれるのは、どのような作品だと思うか。あなたの考えを述べなさい。

ウ　今後も国際化が進むであろう二十一世紀の世界で、外国人が使う日本語はどのようなものになっていくか。あなたの考えを述べなさい。

エ　雑誌の売り上げが低迷しているが、新雑誌を創刊してよいと言われたらどのような内容にするか。あなたの考えを述べなさい。